

# 令和2年度 事業報告書

## 社会福祉法人金太郎の家

デイサービス金太郎の家	地域密着型認知症対応型通所介護事業所さざんか 地域密着型通所介護事業所やまぶき 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所
金太郎の家 障がい福祉サービス	居宅介護、同行援護事業所 日中一時支援事業所
麦の家	就労継続支援B型事業所 生活介護事業所 相談支援事業所
金太郎の家福祉移送サービス	一般乗用旅客自動車運送介護タクシー事業所 有償運送事業所
金太郎の家	集いの場 有償ヘルパー事業所

# 令和2年度事業報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

社会福祉法人金太郎の家

## 総括（法人全体）

### 1. 法人のミッション

誰もが、尊厳をもって、いきいきと暮らせる地域社会づくりの一助となることを願って、活動を行った。病気や、障がい、高齢などの困難を抱えた方々の人権が守られ、住み慣れた地域において、その人らしい生活が継続できるよう支援することを目的として事業に取り組んだ。ご利用者お一人お一人を大切にすする支援を心がけた。

### 2. 新型コロナウイルスとの闘い

今年度は、全世界にコロナウイルスの感染が拡大し、多数の重症者や、死者が出るという不幸な年であった。コロナウイルスは、非常に感染力が強く、国内においては、東京、大阪などの都市部を中心に感染が拡大し、島根の地でも感染が確認されるようになり、感染予防と、未知の病への不安との闘いの1年だった。特に、高齢者施設や障がい者施設でのクラスター発生のニュースから、いつ我々の事業所に及ぶかもわからないという危機感を強くした。

そのため当法人でも、新型コロナウイルス感染症から、ご利用者や職員を守ることが、法人の第一命題となり、事業も昨年度より縮小せざるを得なかった。感染予防を行いつつ、介護保険や障害福祉サービス等の公的サービスを継続的に行うことに全力を注いだ。感染リスクを下げるため、集いの場などの自主事業、一人暮らし応援隊の買い物支援、介護の集い、子供交流会などの地域貢献活動は中止、あるいは一時中止とした。そのため、総利用件数は、昨年より、1,584件の減となった。外部からのボランティアの申し出もしばらくお断りした。クラスターを予防するため、毎月の職員会も6月、9月、10月、3月の4回のみ開催し、他は文書にて行った。第三者委員会や運営推進会議などの会議も、感染拡大の時期には中止し、文書とした。

日々の感染対策としては、手指の消毒、マスクの着用、送迎時の乗車前検温、職員においては、勤務前の検温の徹底、定期的なドアノブや手すり、廊下などの消毒を徹底した。また、設備としては、活動室、食堂には飛沫防止パネルを設置、各部屋には空気清浄機を購入して設置した。利用者、職員には県外への移動の自粛、抗体検査キットの無償提供などの対策もとった。

これらの感染対策に対して、国や県から「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」が支給された。コロナ拡大防止のために、消毒液や、各部署の備品等の購入に充てた。

今年度は、まさに守りの1年であった。幸いなことに、ご利用者、職員ともにコロナウイルスへの感染はなく、事業が継続できた。

### 3. 利用状況及び運営状況について

事業活動収入は、216,217千円で前年比、105.6%、事業活動支出は186,309千円で前年比105.4%で、事業活動資金収支差額は、29,908千円、当期資金収支差額は、6,474千円となった。人件費比率は、69.2%である。

利用件数については、総利用件数は28,785件で、昨年より1,584件の減であったが、利用料収入は、206,040千円で、昨年より7,910千円の増であった。利用件数については、前述したとおり、コロナ感染の波が到来する度に、集いの場の活動や一人暮らし応援隊による買い物支援等を中止したために、集いの場の利用延べ人数は、例年の2分の1となった。またおちらとウォーキング、子ども交流会、介護の集い等の地域貢献活動も中止したために、利用件数は大きく減少した。しかし厚生労働省から事業を継続するように通達もあり、公的事業の方は感染予防をしつつ継続した。ご家族が県外へ移動した等により、利用を控えていただいた事案などもあり、利用人数の減少はあったが、最小限に食い止められた。反対に、コロナ加算が算定できるなどの支援策もあり、収入が増加した事業もみられた。

事業ごとに見ていく。

#### (1) 通所介護事業（地域密着型通所介護やまぶき、認知症対応型通所介護さざんか、集いの場）

「さざんか」の年間利用延べ人数は、3,541人で、昨年より40人の減であったが、1日の利用人数としては、12人定員に対して11人台で推移した。利用料収入で見ると、48,980千円で、昨年度より約40万円の増であった。コロナ加算などの影響もあると思われる。

「やまぶき」については、延べ利用人数は、3,868人で、74人の減であったが、収入は、105万円の増だった。

自主事業としての有償デイは、コロナ感染の波が来るたびに事業を中止したため、利用延べ人数は、910人と、昨年度と比べ半減し、利用料収入も168万円と半分になった。

#### (2) 高齢者訪問介護事業

老人居宅（高齢者訪問介護）は、5,254件で、昨年より150件の減であったが、利用料収入は、212万円の増であった。これは、有償ヘルパーが370件減り、反対に介護保険訪問介護が214件増えたことによるとと思われる。コロナ禍においても感染予防をしながら利用者宅の訪問を行った。

#### (3) 障がい居宅（障がいヘルパー、福祉移送）

障がい居宅の延べ利用回数は6,109件で、昨年より1,022件の減であり、収入は、88万円の減となった。居宅介護（障がいヘルパー）は、1,602件と昨年より281件の増であったが、同行援護は、コロナのために外出を中止される方が多く、利用は3分の1に減り、コロナの影響を大きく受けた。移動支援も1,148件で、372件の減であった。また、福祉移送部門も福祉タクシーが808件で前年度の87%に、有償運送（78条）は2,481件で75%に減少した。

#### (4) 障がいデイサービス（生活介護、就労継続支援B型）

麦の家就労継続支援B型の延べ利用人数は、3,277人で、144人の減、であった。これに対し、生活介護は延べ3,465人で、昨年に比べ722人の増であり、利用料も700万円余り増えた。昨年の平均利用人数は、8.91人であったが、今年は、11.2人になった。

#### (5) 居宅介護支援・障がい相談支援

老人居宅介護支援は、延べ1,727件で、利用料収入は、2258万円で、80万円の増であった。障がい相談支援は、延べ122人で昨年とほぼ同じだった。

詳細は、事業ごとに報告する。

#### 4. デイサービスやまぶき増設断念と、移転新築への計画の変更

令和1年12月の理事会に、デイサービスやまぶきの増設案を提出し、金太郎の家本部敷地内、南側庭にリハビリのできる活動棟を増築することで了解を得、令和2年3月の理事会において、5～6月に着工、9月には竣工する方向で承認された。

しかしながら、計画を進める中で、現デイサービスの建物が、住宅専用となっており、これ以上の増築は難しいことが判明した。令和2年6月の理事会にて麦の家敷地内に、デイサービス全体を移転新築するという計画の変更を提案。定時評議員会においても説明し、5年後の建設を目指す方向で了解を得た。

この事項について、本部事務局、デイサービス職員間で、具体的に検討していく中で、建設時期をもっと早めるべきだという意見が出され、12月の理事会にて次のような提案を行なった。① 建設時期を早め令和3年度にすること、② 東側に擁壁、フェンスを建設すること、③ 資金の借入先の選定、④ 令和4年度より事業を開始すること等。令和3年1月、3月の理事会にて検討を重ね、3月の第4回理事会において了承された。

デイサービスの職員、主任、事務局職員等で「建設プロジェクトチーム」を立ち上げ、設計図等の細部の検討を行っている。今回の建物のコンセプトは、今の金太郎の家らしさを残した、家庭的で温かみのある和風の建物。デイサービス職員を中心にアンケートを取り、新しいデイサービスのアイデアも募った。3月末時点での、移転新築の概要は下記のとおりである。

項目	内容
1. 着工時期	令和3年4月より実施設計、7月頃より着工、12月頃完成予定
2. 移転場所	出雲市斐川町学頭 1510-2 (麦の家北側空き地)
3. 建物	床面積 390㎡ 木造平屋建
4. 入る予定事業所等	① 地域密着型通所介護事業所やまぶき ② 新設地域密着型通所介護事業所 ③ 居宅介護支援事業所 ④ 法人本部事務局
5. 現在の建物の利用	○ 認知症型通所介護さざんかについては、当面今の場所で営業を継続 ○ 第3活動棟で行っている「集いの場」の活動を、現やまぶきにて行う。

#### 5. よりよい支援を目指して

##### (1) 地域課題解決に向けての取り組み

前述したとおり、コロナの影響を受けて、地域活動や地域貢献活動を中止や一時中止とせざるを得なかった。一人暮らしの方の買い物支援は、10月まで休止、以後感染状況を見ながら少しずつ実施した。配食弁当は継続し、延べ466食を提供した。介護の集い、おちらとウォーキングなどの行事も中止とした。地域貢献活動の減少は、収入面では直接的な影響は見られなかったが、地域の方々との関係が希薄

にならないか心配でしている。また、金太郎倶楽部など、半年余り休んで再開すると、ずっと家から出ていなかったために、下肢機能の低下が進まれている方などもみられた。

## **(2) リハビリを重視した活動**

高齢者のデイサービスにおいては、2名の理学療法士が中心となり、個別リハビリに取り組んだ。狭い室内や、廊下や玄関、2階への階段、また庭や団地の道路なども使い、工夫して個別リハビリを実施した。また、グループでも体操を行ったり、ゲームを取り入れた上肢下肢の運動を日々実施、天気の良い日には、散歩に出かけるなど、心身機能の維持向上に努めた。

麦の家生活介護事業所においても、理学療法士による個別リハビリを実施。脳梗塞による片麻痺や、下肢障害のある方など、個別リハビリに期待を寄せられており、とても真剣に取り組まれた。

## **(3) 働くデイサービスを目指して**

これまでも活動に様々な「作業」を取り入れてきたが、今年度はさらに力を入れ、それぞれの特技や経験を活かして「働く」活動に取り組んだ。特に認知症デイサービスご利用の男性の方を中心に、畑での野菜作り、木工、庭木の手入れ、回収した空き缶の処理など行なった。畑の作業では、玉葱の苗4,000本を植え、収穫し販売した。障がい就労継続支援B型を利用されている方とも協力して活動を行った。空き缶の回収、つぶして事業者にとっていくなどの作業も主体的に、取り組まれた。その収益で、鯛焼きを購入したり、年度末には、ご利用者の提案で、揃いの黄緑のウインドブレーカーも購入した。また作業を通して地域の方とのつながりも持つことができた。これらの活動は、デイサービスの全国誌『月間デイ』にも取り上げられ紹介された。極小黒豆のうね立て、種まき、豆出し等の作業も皆で協力して取り組まれた。畑仕事や、農作物の処理など慣れた仕事は、ご利用者がいきいきと取り組み、職員が教えていただくことも多かった。

## **(4) ご利用者職員で作上げた敬老週間行事**

毎年、外部からボランティアの方に来ていただいて敬老会行事を行っていたが、今年度はコロナのため、来ていただく事が難しかったので、ご利用者と職員の企画で、歌あり、寸劇あり、手品ありの出し物で楽しんで頂いた。部屋いっぱい笑い声が響いた。

## **(5) 運営推進会議**

4月と、10月に地域密着型デイサービスの運営推進会議を開催した。しかし、1回目は、コロナの感染者が多く出ている時期であり、文書にて行った。2回目は、利用者代表、ご家族代表、地域の有識者の方等に集まっていただき、金太郎の家での活動状況について報告し、ご意見をいただいた。

## **(6) 職員研修**

年度初めに、年間の研修計画を各自立て研修に参加する予定であったが、コロナのために、特に前半、外部研修がほとんどなくなり参加できなかった。後半になり、リモートでの研修が行われるようになったが、職員も操作に慣れず、戸惑うことが多かった。研修復命書は前年に比べると半減した。

内部研修も、職員会の中止や時間短縮のため、例年のように実施できなかった。コロナが少し落ち着いていた10月に、エスポアールの高橋幸男先生に来ていただき『認知症を受け入れる文化づくり』と題しご講演をいただきとても有意義であった。

又、研修ができない状態を補うために、研修資料を配り、全員がレポートを提出することとした。熊

谷晋一朗氏の『自立は、依存先を増やすこと 希望は、絶望を分かち合うこと』、2回目は上田諭氏の『治さなくてもよい認知症』、金沢翔子、泰子氏の書やエッセイ等。職員は皆とても真剣に取り組み、それぞれに深く考え、掘り下げたレポートが提出された。

## 6. 活力ある職場作りをめざして

4月、4名の新入職員を迎えて66名の職員でスタートした。コロナ禍、日々感染予防に注意を払い、気持ちの休まらない1年であったが、各部署の職員が互いに力を合わせて、無事に事業を行うことができた。

平成31年より労働基準法の改正により、週5日以上、または30時間以上勤務する職員は5日以上の年休取得が義務付けられたが、2年目に入り、年度初めに計画書を提出、スムーズに取得できた。

今年度は、職員にも様々なことがあった。病気で長期療養する職員が数名出たが、治療を受け、うれしいことに全員回復し、職場復帰を果たした。また、新しい命を授かった職員も今年度は4名おり、3名の職員が、産休、育休を取得した。

職員会や、交流の場が持てず、他の部署職員間の交わりが希薄になることを懸念したが、協力して事業に取り組むことができた。

## 7. その他

昨年度発行予定であった「金太郎の家二十周年記念誌」を6月に発行し、地域の方やお世話になった皆様等に配布した。

年末から年始にかけて積雪があり、数年前に購入していた除雪機を初めて始動させた。これで法人の敷地内だけではなく、地域貢献として周辺の道路の雪かきも休日返上で行った。

# 各事業の実施状況

## ■法人本部

### (1) 理事会、評議員会の開催

今年度は4回の理事会と1回の書面決議、1回の評議員会を開催した。地域に根差した法人活動の展開に向けて意見交換が行われた。また、内部監査、監事監査も実施した。理事会、評議員会の開催内容は次のとおりである。

#### 令和2年度 理事会

会議名	日時	出席者数	議事
第1回理事会	令和2年6月5日 (金)18:30~20:00	理事7名 監事2名	○平成31年度事業報告(案)について ○平成31年度決算報告(案)及び財産目録(案)の承認について ○令和2年度第1次補正予算(案)について ○経理規程変更(案)について

			○就業規則変更（案）について ○評議員会の招集について
第2回理事会	令和2年12月4日 (金) 18:30~20:00	理事7名 監事2名	○令和2年度第2次補正予算（案）について
第3回理事会	令和3年1月13日 (水) 18:30~20:00	理事6名 監事2名	○デイサービス事業所移転新築について
書面決議	令和3年2月8日 (月) 発送	理事7名 監事2名	○評議員選任・解任委員選任について
第4回理事会	令和3年3月23日 (月) 18:30~20:00	理事7名 監事2名	○令和2年度第3次補正予算（案）について ○令和3年度事業計画（案）について ○令和3年度当初予算（案）について ○評議員候補者の推薦について ○評議員選任委員会の招集について ○評議員会の招集について ○デイサービス事業所移転新築について

#### 令和2年度 評議員会

会議名	日時	出席者数	議事
第1回評議員会	令和2年6月20(土) 18:00~19:30	評議員8名 監事2名	○平成31年度計算書類及び財産目録の承認について

## (2) 福祉啓発、地域交流事業

### ①介護の集い

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

### ②地域交流行事等

「おちらとウォーキング」「夏休みこどもクリーン活動&交流会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

「荘原コミュニティセンター文化祭への参加」は展示のみの参加となった。詳細は下記のとおり。

事業名	開催日	開催場所	対象	参加者数	活動の内容、様子など
荘原コミセン祭への参加	10月10日(土)、 11(日)	荘原コミュニティセンター	荘原地区の方		デイサービス、麦の家利用者の作品を出品。

## (3) 情報の発信

機関紙『金太郎便り』を年3回発行した。ホームページ、フェイスブックでも活動の様子や行事のお知

らせ等こまめに発信していった。

6月には、「社会福祉法人金太郎の家 二十周年記念誌」を発行した。

## **(4) 厨房**

### **1. 活動内容**

- ・朝のお茶口、昼食、午後のおやつ、配食弁当、遅番夕食、宿泊の夕食の調理、後片付け
- ・毎月15日のお弁当の日、煮しめクッキング準備、実施の補助
- ・献立作成、食品の発注、食品払い出し簿の記入、衛生管理簿の記入
- ・検便の実施

### **2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）**

- ・介護保険利用者25名、集いの場利用者5名～20名、麦の家16名～22名、  
配食弁当：週5～7食、遅番夕食：必要時のみ
- ・食事形態・個々の嗜好を考慮し対応した。又、病気治療中の方への食事提供を行った。当日の健康状態の情報を現場の職員から得る事で、体調に合わせた食事を提供した。
- ・コロナウイルスの流行で、クッキングを中止した時期も有ったが、コロナ感染が落ち着いた時期より、衛生面に注意しながら再開し、煮しめクッキングや季節のクッキングを行った。毎年恒例の蕎麦打ちは、コロナ感染予防のため中止した。

### **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

#### **取組み**

- ・個々の食事形態、嗜好を考えた食事作り。
- ・食品管理、衛生的に調理をする。
- ・午前午後のお茶口作り。午後のお茶を利用者の好きな物を選んで頂く事で、水分補給をして頂く。
- ・季節感を大切に食事作りと行事に合わせた食事作り。
- ・職員同士、協力して食事を作る。

#### **効果**

- ・献立作りは3人で取組み、個々の知識を十分に発揮する事で献立作りにバリエーションが出来た。
- ・午睡起きの水分補給（レモン水）、午後のお茶を自由に選んで頂く事でより多く水分補給が出来た。
- ・コロナウイルスの流行にて、朝夕の消毒の徹底を行い衛生面には一層気を付ける事が出来た。
- ・今の職員メンバーになって長くなり、信頼関係も深くなり、お互いに任せあえる事も多くなった。調理時間がオーバーする事も少なくなった。又、急な配食弁当の依頼にも慌てる事なく対応できた。

### **4. 反省点 課題**

- ・ご利用者の嗜好の配慮が足りない部分があった。
- ・食品の取り扱いや保存等の管理の徹底を継続して行っていく。
- ・麦の家の情報が入りにくい事が有った。細かい点まで連絡し合うことが大切。
- ・今まで病気治療の為の食事を提供していた方から「食事が美味しく食べられない」との声があり、改善した。ご利用者から直接話を聞いたり、担当スタッフから細かく情報を得ることを心掛けたい。

- ・今後もご利用者に喜んで頂ける食事作りを行っていききたい。

(担当：原 淳子)

## ■高齢者支援に関する事業

### 1. 老人デイサービス事業

#### (1) 地域密着型認知症対応型通所介護（予防も含む） さざんか

##### 1. 活動内容

- ・9:15～16:30 を提供時間として、さざんかの活動棟にて、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクリエーション、外出等）、入浴サービス、食事やおやつの提供などを行っている。
- ・ハーモニカ、ギター演奏に合わせて歌ったり、マジックショー、戦時中の斐川の様子ディスカッションを行った。畑へ出掛けて、玉ねぎやさつま芋の苗植えから収穫を行った。
- ・手作業では笹巻作り、筍の皮むき、ドクダミの処理、ラッキョウの根切りからラッキョウ漬け、柿の収穫から合わせ柿、干し柿作りを実施。
- ・地域交流として、いりすの丘での餅つきや笹巻づくり、荘原コミセンの作品展示などを行った。
- ・季節の行事として餅つき、クリスマス会や節分、とんどさん、初詣なども行った。
- ・また、季節に合わせての花見のドライブや散歩、外出なども積極的に行っている。
- ・R3.3月現在、個別機能訓練加算9名を算定している。認知症対応型ということで、リハビリとして個別で行う外に、入浴に向かう際に歩行練習を行ったり、トイレ動作の際に立位練習などを行ったりと、ご利用の生活の中でリハビリを行うことが多い。今後も、生活の中でいかに効果を高めることが出来るか、考えていく必要がある。（PT松原）

##### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・今年度は、新型コロナウイルスの全国的な蔓延となり、非常事態宣言が発令される事態となったが、島根県では、コロナウイルス感染は軽微の発生で抑えられている状況であった。デイにおいては、感染症対策を万全に行いながらも、利用者・家族・職員に対し、県外への不要不急な外出の自粛、また、家族の特に蔓延地域からの帰省等の事前報告等文書でお知らせした。その結果、デイの利用を控えて頂いたり、ご自分から休まれる方が多少おられた。
- ・一日の利用人数の平均としては12名の定員に対して11.4人のご利用であった。月々の利用者数を見ると、大雪で営業を休止した為、1,2月の実績が減少した。
- ・今年度の男女比が18:16であり、男性のご利用者が上回る状況だった。
- ・ご家庭の都合などで、ご希望のある方は延長サービスとして、夕食を提供してからお送りしている。10月に2件あった。
- ・有償デイのご利用は、4月3件、5月1件、6、7、8月は2件、10月1件あった。
- ・宿泊サービスは11月1名、12月2名の方がご利用、1～3月1名の方2回ご利用だった。

##### 3. 今年度、力を入れて取り組んだこと 効果

- ・「働くデイ」という事で男性の利用者の方を中心に缶つぶしの作業に取り組んだ。機械のセッティング

から潰して仕分け、片付けまでほぼ自分達でされている。

大工仕事では「さざんかの食堂に、一人用の机が欲しいね。」と言う意見から、男性スタッフが一緒に材料の木材の調達から始まり、材料を切ったり組み立てたり仕上げのペンキ塗りまで協力しながらされ、完成した。

- ・豆出し作業では、金太郎の家の畑で育てた極小黒豆や、白大豆を、一つ一つ手で出されていた。空港近くに借りている畑と麦の家に畑がありそこで玉葱やさつまいも、ジャガイモ、あすっこ等も作っている。
- ・もったいない野菜の販売では、出荷できない規格外の野菜を頂き皆さんと綺麗にして販売。
- ・今年も正月準備として、門松づくりを行い、皆さんで協力して立派な門松を作った。
- ・月一回の分科会にて利用者の方の状態や注意点などを共有し、転倒防止、薬の確認を再確認し、職員間で確認するよう話し合った。また、デイのノートを活用し、職員間で共有した。
- ・机の配置や椅子の置き方などその日の利用者の方が過ごしやすい雰囲気作りが出来るよう配慮した。その日の体調に合わせ、利用者に寄り添った個別の対応を心がけた。

#### 4. 反省点 課題

- ・今年度はコロナウイルスの関係で、地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、地域との交流が持てない状況だったため、次年度はコロナウイルス感染状況を把握しながら是非行いたい。なお、コミセンの文化祭には作品展示を行った。
- ・玄関の所を板張りにして活動スペースが広がった所で、作業して頂く機会が増えた。今後も利用者の方が快適に過ごしていただけるような環境整備、活動内容を行っていききたい。
- ・重度な認知症の方への対応や、帰宅願望がある方への対応、迎え時の拒否のある方、入浴拒否のある方など、対応が困難に感じる場面が多々あった。様々な認知症に対する理解や、実際の対応方法についてももっと職員間で検討していく機会をつくっていききたい。

#### 5. その他

- ・新型コロナウイルスの蔓延予防対策として、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を使い、ハード面では飛沫防止パネルや空気清浄機、音響機器を設置し、ソフト面では、職員の感染症対策に関する意識の向上を図り、消毒、マスク着用、手洗い・うがいの励行等の徹底に努めてきた。また、利用者スタッフの健康管理（検温・体調観察）を習慣化してきた。今後もさらに、一人ひとりが除菌の意識をしっかりと持った行動をとる事が重要である。

(担当：古川容子)

○利用件数（予防含）定員 12 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	291	289	302	303	291	304	312	294	305	258	283	309	3541
平均	11.19	11.12	11.62	11.22	11.19	11.69	11.56	11.76	11.73	11.22	11.79	11.44	11.46

## (2) 介護保険 地域密着型通所介護（総合事業含む）やまぶき

### 1. 活動内容

- ・9:15～16:30 をサービス提供時間として、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクリエーション、手作業、外出等）、入浴、リハビリ、食事やおやつを提供などを行った。
- ・居宅介護支援事業所からのケアプランに基づき、個別援助計画を作成しご利用者がその能力に応じて自立した日常生活を営めるよう援助した。定期的及び必要時にモニタリング（アセスメント作成）を行い、計画を見直しご利用者の状況、ご希望に添ったケアの提供に努めた。
- ・リハビリ的視点に立ち、PT が中心となり生活の活発化に向けた支援を行った。周辺の散歩をはじめ、食事の準備、野菜の下処理、畑での野菜（玉葱・さつまい芋等）づくりや下肢の筋力の維持、向上の取り組みを実施した。
- ・レク活動では、脳トレを希望される方も多く、クロスワードや間違い探し、歌当てクイズ等の活動も取り入れ、楽しみながらも達成感を感じて頂けるよう配慮した。下肢の筋力維持向上ため新聞紙、ボール等の道具を使って下肢の運動やリハビリ体操、歌（二輪草・365 歩のマーチ・高原列車は行く等）に合わせての体操も行なった。ハーモニカやギター演奏に合わせての合唱、マジックショーの観賞等行った。地域との交流はコロナの関係で通常よりは少なかったが、いりすの丘での餅つきや笹巻づくり、荘原公民館での文化祭に作品展示等を行った。  
季節行事として、敬老会、クリスマス会、初詣、餅つき、とんどさん、節分など行った。
- ・手作業では、毎月のカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、雑巾縫いまた季節の野菜の下処理（筍・ドクダミ・柿・ラッキョウ）や料理・おやつクッキング等を実施し、慣れた手つきで熱心に参加されていた。なお、働くデイを目指し、豆出し作業やシーツ交換、もったいない野菜の販売など新たな活動に挑戦した。
- ・R3.3 現在、個別機能訓練加算 17 名、運動器機能向上加算 8 名を算定している。3 か月ごとに歩行速度等の評価を行い、身体機能の評価・プログラムの変更を行っている。在宅生活を把握し、具体的な目標を設定し、利用者様と話し合いながら進めている。「足の力が付いた」という身体機能の向上だけでなく、掃除が楽になったなど生活面での向上が見られた。（PT松原）

### 2. 利用状況、利用傾向

- ・一日の利用人数の平均としては 13 名の定員に対して 12.6 人の利用であった。月々の利用者数を見ると、大雪で営業を休止した為、1,2 月の実績が減少した。
- ・男女比では圧倒的に女性が多く 43 人に対して男性は 4 人であった。
- ・前年度より登録者数も増加し、登録者全体で 47 名の内、要支援の方が 10 名で 3 分の 1 は軽度の方だった。要支援ではあるが、入浴希望者は変わらず多く入浴の加算は無いものの殆どの方が入浴された。
- ・一週間の内 1～2 回の利用であったり、月に 1～2 回の利用の方がおられた為、全体の利用者数としては多かった。
- ・また、全体の平均要介護度は、1.49 で、要介護 1、2 の方が全体の 63%を占めている。
- ・年齢別では、平均年齢が 86.4 歳で 80 代 90 代の方が全体の 91%だった。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・利用者のケースファイルの各重要書類の有無・点検確認作業をしている。介護保険証、自己負担割合証、ケアプラン、個別ケアプラン、評価表等をチェック項目毎にまた時系列に確認している。このことにより、ケアプランに基づき適切に援助が来ているかどうか再認識でき、評価はもちろんのこと、定期的なモニタリングによる計画の見直し、利用者本人の状況や要望に寄り添えるケアの提供の一助になると考えている。
- ・曜日にもよるが、杖歩行やスキーウォーカー、サンフィールを使用される方が多く、状態が悪化すると車椅子移動となることが多くあった。室外、室内共に移動時は出来るだけ見守りや付添を行った。周辺の散歩時も車椅子を使う方が多く安全に配慮した対応を実施した。
- ・回想法の導入やアクティビティー、レクリエーションのバリエーションを駆使し、認知症予防、身体的機能維持向上を図るため、充実したデイでの生活を過ごして頂けるよう取り組んできた。特に、利用者の人生観（生きざま、価値観）や趣味、特技等を十分に把握することで、輝ける場や居場所の提供への支援を強化してきたが、今現在試行錯誤の段階で、小さなことから一つでもできればと考えている。
- ・活動では、毎月壁面を飾るカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、塗り絵等をして頂いた。脳トレを希望される方には、クロスワードや間違い探し、計算ドリルの活動を実施し、達成感を感じて頂けるよう配慮した。
- ・野菜の下処理や、蒨・玉ねぎ・ネギ・筍の下処理、黒豆の豆出し、煮しめクッキングの手作業も皆さん生き生きと取り組まれた。特に、ネギなどの販売が開始され、下処理から計量、包装、梱包、出荷までの作業にも取り組んで頂き、このことによって、社会の一員としての意識回復の一助となったのではないかと考えている。今後も継続していきたい。
- ・PTの指示にてホットパックを実施しているが、希望者が多い為確認しながら施行し喜ばれた。PTによる個別対応（機能訓練）や対話も非常に喜ばれ、体調についての相談もできる事から感謝の言葉が多く聞かれた。
- ・利用者との関わりの手段の一つとしてアロママッサージを取り入れた事で、お一人お一人の体やお気持ちに丁寧に接する機会を設けることが出来た。

### 4. 反省点 課題

- ・今年度はコロナウイルスの関係で、地域行事への参加やボランアの受け入れ等、地域との交流が持てない状況だったため、次年度はコロナウイルス感染状況を把握しながら是非行いたい。なお、公民館の文化祭には作品展示を行った。
- ・前年度同様、限られたスペースのなかで、ベッドで午睡を希望される方が多く、ベッドの準備や片付けにスタッフの負担が大きい。簡易ベッドは毎日動かすので故障し易く、気を付けて行く必要がある。
- ・一週間の内で特に土曜日は、移動に時間を有する方が多く、見守り付き添い頻度が多く、また、排泄の頻回、入浴への誘導困難、送迎車への移動等スタッフへの負担が大きい。（時々、さざんかから応援してもらっている）
- ・利用者の歩行状態の悪化等により、スキーウォーカーやサンフィール等の歩行器使用の頻度が増え、現在の台数では不足する時もあったため、新たに購入した。

## 5. その他

・新型コロナウイルスの蔓延予防対策として、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を使い、ハード面では飛沫防止パネルや空気清浄機、音響機器を設置し、ソフト面では、職員の感染症対策に関する意識の向上を図り、消毒、マスク着用、手洗い・うがいの励行等の徹底に努めてきた。また、利用者とスタッフの健康管理（検温・体調観察）を習慣化してきた。さらに、一人ひとりが除菌の意識をしっかり持った行動をとる事が重要である。

(担当：稲垣長郷)

○利用件数（定員 13 人）延べ人数下段は総合事業利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ 人数	310 (48)	318 (41)	329 (45)	342 (40)	321 (40)	327 (38)	348 (42)	320 (41)	321 (35)	280 (39)	306 (40)	346 (46)	3868 (495)
平均	11.92	12.23	12.65	12.67	12.35	12.58	12.89	12.80	12.84	12.17	12.75	12.81	12.55

○延長サービス、宿泊サービス、有償デイサービス 延べ利用件数（さざんか、やまぶき）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延長サービス	0件	0件	0件	0件	0件	0件	3件	0件	0件	0件	0件	0件
宿泊サービス	0件	1件	2件	2件	2件	2件						
有償デイ	3件	1件	2件	2件	2件	0件	1件	0件	0件	0件	0件	0件

### (3) 自主デイサービス（集いの場等）

#### 1. 集いの場の活動

地域の高齢者、障がい者を対象に「集いの場」の活動を行った。「金太郎倶楽部」「金太郎大学」「歌う青空の会」「なごみ川柳会」「木曜会」の5グループに分かれ、第3活動棟を使って活動した。毎週火曜日金曜日と隔週の木曜日に開催、年間の延べ開催回数は86回、利用者数は907人であった。収入は1,686千円であり昨年より1,351千円の減であった。

4、5月及び1～3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を中止したグループもあった。各グループの活動状況は、下記の通り。

	R2年度集いの場 利用状況											
	歌う青空		木曜会		金太郎大学		川柳		金太郎倶楽部		合計	
	回数	延人数	回数	延人数	回数	延人数	回数	参加者+投句	回数	延人数	延回数	延人数
4月	0	0	2	22	0	0	0	0+8	2	20	4	42(8)
5月	0	0	0	0	0	0	0	0+8	0	0	0	0(8)
6月	1	10	2	24	1	12	1	4+5	6	62	11	111(5)
7月	1	12	2	25	1	12	1	5+3	5	62	10	111(3)
8月	1	13	2	20	1	10	1	4+4	4	45	9	92(4)

9月	1	11	2	26	1	12	1	4+4	5	50	10	103(4)
10月	1	13	2	27	1	13	1	5+3	6	63	11	121(3)
11月	1	12	2	24	1	12	1	6+3	4	40	9	94(3)
12月	1	14	2	24	0	0	1	4+5	3	35	7	77(5)
1月	0	0	0	0	0	0	0	0+8	0	0	0	0(8)
2月	0	0	0	0	1	11	1	5+3	3	38	5	54(3)
3月	0	0	2	21	1	13	1	5+ 3	6	63	10	102(3)
合計	7	85	18	213	8	95	9	42(57)	44	472	86	907(57)

## ア. 金太郎倶楽部

### 1. 活動内容

- ・体操・脳トレ・歌に加え、お茶会で利用者より新聞の切り抜きなどの話題提供があり、賑やかな会。
- ・クッキング・四季折々のドライブ・外出も楽しみにしておられる。

### 2. 利用状況・利用傾向

- ・毎第1、4火曜日、第1、2、3金曜日。毎回10～15名のご利用があり、皆さん出欠カレンダーを利用しながら出席される日を決められている。
- ・参加者の中には、デイサービス・他施設との兼用の方も増えてきた。
- ・コロナの影響で休止および自主的に休まれる方も多く利用者は減少となった。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・コロナ禍の中、予防の為に、毎回利用前の検温・乗車前の手指消毒・到着後の手洗い・うがい等声がけして、定着してきた。反面、直接来所の方の検温等忘れることがあった。
- ・パーティションの活用、会中の消毒・換気も皆さん協力的だった。

### 4. 反省点 課題

- ・体調を崩された時に、落ち着いて休んで頂ける場所がなくここ待った。
- ・以前より、機能低下されている方が多く、介助のいる方が増えている。

(担当：嘉藤 敬)

## イ. 金太郎大学

### 1. 活動内容

- ・川上 茂氏による出雲風土記にまつわる話。
- ・昌子寛光氏による「斐川町」を探る。(歴史など)

### 2. 利用状況・利用傾向・活動の様子

- ・毎月第4金曜日。今年は、コロナ感染予防の為に、前年度3月以降、4・5月と12・1月と休会した。
- ・再開してからは、10～14名のご利用があった。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・日本古来の文化をテーマに、講義して頂き、皆さんから活発な意見や昔話が出た。
- ・8月に、宍道様より大学公開講座として『戦争遺跡大社基地』という内容で、荒神谷博物館にて講演し

て頂いた。一般の方々の参加もあり、地域交流にもなった。

#### 4. 反省点・課題

- ・参加者の方々の高齢化に伴って、体調不良の為に、欠席もあった。
- ・又、コロナ禍での開会は、用心の為、中止せざるを得なかった。
- ・コロナ禍、外出も出来ず昼間一人住まいの方も居られ、感染予防を徹底した上で、大学を再開した際は、大変喜ばれた。

(担当：目黒代志子)

### ウ. 歌う青空の会

#### 1. 活動内容

- ・会の始めに、撮影した写真や映像を披露しながら、季節感や月の歌を連想して引き出していった。
- ・曲の背景やエピソードなども紹介し、時代を遡り、ご自身がどうその時代を生き抜いて来られたのか、歌と共に回想して頂いた。CDを活用したり、ギター・キーボード演奏、楽器演奏して頂いた。
- ・懐メロについては主として昭和の曲を中心に時代を追いながら選曲し、「私の好きな歌手順位」からリクエストがあった曲を取り上げた。プロジェクターを用いて視覚的にも楽しんで頂いた。

#### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・今年度は、コロナ禍の影響下、休会や先生が来県できず、スタッフが先生の代わりをするなどしながら、歌うあおぞらの会を催した。
- ・利用された人数は、10～15名で、新しい方も入会され、話題が広がった。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・コロナ感染予防の為、常にマスクを付けているが、「楽しく歌う」ことを意識した。
- ・歌うことで、呼吸筋や全身の筋力アップするように、皆で健康作りを目指した。
- ・歌や曲に込められた想いや願いに着眼して、「ここは元気に強く」や「ここは優しい感じで」などの指示も取り入れるようにした。輪唱などにも引き続きチャレンジして頂いている。
- ・曲の背景やエピソード、懐メロについては歌っている歌手のエピソードなどを事前に調べて披露し、喜ばれたので、今後も継続していきたい。

#### 4. 反省点 課題

- ・上記のように、コロナ禍において皆で免疫力をつけていくよう、更に頑張っていく。
- ・引き続き、検温・消毒・換気等、声を掛け合って、基本的な予防策を継続していきたい。
- ・メンバーも年齢を重ねられ当初より ADL の低下がみられる方も増えてきている。会の最中はもちろんだが、送迎時やお茶・食事の時間も含め参加者の体調等にも注意を払っていきたい。

( 担当：西博美 )

### エ. なごみ川柳会

#### 1. 活動内容

- ・川柳作りを楽しむ。作った作品をなごみ川柳会の作品集、金太郎便り、山陰中央新報（私の作品コーナー）、出雲川柳会、荘原コミセン文化祭へ作品を出品した。
- ・川柳以外に皆さんが興味を持っておられる、健康作りや社会時事人生論について考える機会を持った。

## 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第三火曜日。出席会員 5～8 名、投句会員は 1 名～5 名。
- ・今年は、コロナの影響の為、休会もあったが、川柳を作り、皆さんで川柳について話したいという自発的な熱意から、2 月から再開する事になった。

## 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・古代ハス作品展で特別賞 1 名、出雲川柳会で奨励賞 1 名の受賞があり、皆さんで喜び合った。
- ・コロナのため延期になっていたビンゴ大会を 6 月に開催し、皆さんでドキドキワクワクのひとときを過ごされた。
- ・川柳を楽しんだ後、少しでもコロナ予防する観点から、1 時には解散したいと先生が提案され、川柳会を早めに閉会した。

## 4. 反省点 課題

- ・いつまで続くかわからないこのコロナ禍の時代だが、皆さんが川柳によって心が癒されるように、更に明るい気持ちで作品作りに精進していきたい。
- ・引き続き、川柳会中や送迎時も含め参加者の体調、転倒等にもより注意を払っていききたいと思う。

(担当：西 博美)

## オ. 木曜会（相撲甚句の会）

### 1. 活動内容

- ・「大笑い」「気合いだ」で開会。全員で「アーアー」発声。「前唄」「後歌」を全員で合唱。その後、2 班に分かれ歌う。「はやし」を 5～6 本。全員で「木曜会練成歌」を大合唱。
- ・本唄は男性中心だったが、最近は女性の皆さんも次々歌われるようになってきた。
- ・体操、色々クイズ。・瀬崎さんの「ためしてがってん」健康教室。
- ・午後は、ハーモニカによる懐メロを中心にイントロクイズ、合唱。

### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第 1、3 木曜日。13～15 名のご利用がありました。（第 3 木は 10～11 名）
- ・コロナの影響で、令和 2 年 4 月第 3 木から 5 月すべて、令和 3 年 1・2 月は中止して対応した。
- ・女性も本唄を覚えて歌われ、活気が出てきた。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・上記にも記載したが、女性の方々が積極的に歌って頂きたく、「力」を入れて、取り組んだ。

### 4. 反省点 課題

- ・ボランティアさんが欠席された時は、裏方に手が回らず、苦勞した。
- ・座席によっては、私語が多く、今後の課題。
- ・アクリル板のパーテーションを設置するようにしたが、それによって、見通しが悪くなり活動しにくい面もあった。

(担当：坂本道夫)

## 2. 訪問介護事業

### (1) 介護保険 訪問介護事業

#### 1. 活動内容

- ・身体介護～ 体調確認、水分補給、食事、服薬、排泄、ポータブルトイレの更新、衣類の着脱、入浴、足浴、手浴、清拭、移動介助、通院介助
- ・生活援助～ 体調確認、調理、買い物、食材等の保存確認、薬取り代行、住居内の掃除・整理整頓、洗濯、シーツ交換、ベッドメイキング、室内換気、室温調整、ごみ出し
- ・通院等乗降介助～ 移動の介助又は見守り、車椅子移乗、乗車・降車の介助又は見守り

#### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・高齢化、認知症の進行、病気の悪化等で自力での生活が難しくなった方があり、新規利用者やサービスの追加があった。コロナ関連で県外から家族の帰省があった方等、デイサービス利用が出来ず訪問追加があった。家族帰省中は訪問中止の方もあった。
- ・入院やショートステイ利用で訪問中断の方が数名あり、訪問件数減少があったが新規利用増加した。
- ・通院等乗降介助では、利用者の状態を観察し安全に乗降出来るよう介助又は見守りを行った。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・昨年からの全国的な新型コロナの流行が続き、マスク着用と手洗い、うがい、手指消毒の徹底を心掛けた。ヘルパー個々が消毒スプレーを持ち歩き、訪問先へ入る前に手指消毒、支援終了時に手洗いを行う。ヘルパー全員に袖付きエプロンを一日の件数分用意し、生活支援、身体介護どちらも使用。非常時の為にフェイスシールド、防護服も購入した。乗降介助利用者に乗車時手指消毒をして頂いた。関係者に感染者及び濃厚接触者は出ておらず、今後も継続して感染予防徹底をしていく。
- ・訪問漏れ防止の為、ヘルパー個人が毎日、朝と最後の訪問後に本部事務所に連絡する事が定着し、訪問漏れが無くなった。
- ・コロナの為に研修会が少なかったが、参加した者が大事な点を分科会で伝え文書にまとめて配布した。
- ・分科会、連絡ノート、グループライン活用での情報共有。日々の訪問での気づきを職員同士、管理者、サ積と話し合い、支援のやり方を検討した。日々状態が違う利用者について、ヘルパー同士の連携及び、ケアマネ中心にご家族、訪問看護、デイサービス等他事業との連携を取り支援を行った。
- ・気づきをケアマネに報告し、支援内容の変更、改善に繋げる事が出来た。

#### 4. 反省点 課題

- ・4月に非常勤ヘルパー1名採用。12月に非常勤ヘルパー1名退職あり、訪問先増加もあり人員不足となり、1月よりデイサービス職員3名それぞれ週1日手伝ってもらった。2/1より常勤ヘルパー1名採用にて、以前から手伝ってもらっているデイ職員は継続で、3名は3月よりデイに戻る。
- ・移送職員不足の為、訪問勤務を調整して移送業務に出る事があった。
- ・定期時間での訪問が出来ない日があり、利用者時間に時間、曜日変更のお願いする事があった。月末月初等に事務時間が取り難く、内勤業務の滞りがあった。
- ・職員それぞれが研修会に参加し、よりよいサービスの提供と個々の意識を高めていく。
- ・日々、報告、連絡、相談を行い、利用者の状態悪化防止、サービスの改善に繋げる。

## 5. その他

- ・デイ職員の応援があり、他部署の職員と交流ができ、ヘルパーの業務を知ってもらう良い機会となった。

(担当：須谷敦子)

### (2) 有償ヘルパー事業

公的サービスで対応できない家事援助等、利用者の希望に合わせ幅広い支援を行った。通院時の院内付き添い等、介護保険サービスと組み合わせて行うケースもあった。

利用件数は、年間630件、月の平均は53件であった。収入は112千円で昨年より74千円の減であった。

デイ等の職員の協力も得て独居高齢者宅へ夜間や日曜日の日中に訪問し、安否確認、就寝介助等を行った。在宅生活を継続していく上で、無くてはならないサービスであると考えている。

独居の方の急な入院の際、県外からの家族帰省が出来ず、入院用品を準備し届ける事も行った。

新型コロナウイルス流行の為、施設に入所されている方の外出、帰省や県外へ旅行の同行、余暇活動等今年度は控えられた。

(担当：須谷敦子)

○訪問介護・有償ヘルパー利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護	296	336	328	326	247	272	328	340	337	277	264	316	3,667
総合	76	78	76	100	59	77	74	86	76	69	69	75	915
有償	62	73	57	63	41	42	45	54	53	41	45	54	630

## 3. 老人居宅介護支援事業

### 1. 活動内容

- ・毎月、月の半ば頃より、ご本人またはご家族に連絡し、自宅での様子やサービスの利用状況などを確認した上で、次月の利用票を作成し、自宅にモニタリング訪問する。訪問時、利用者の生活状況の把握やご本人やご家族の思いを聴き、サービスの相談を実施。
- ・包括支援センターから委託された、要支援、総合事業対象者のケアマネジメント業務の実施。
- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、ケアプランを作成し、サービス担当者会議を開催し、調整する。
- ・入退院時の医療機関との連携、退院時の支援。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。
- ・介護保険請求業務。
- ・毎週分科会を実施し、ケース検討や研修報告等を実施。
- ・計画に基づいた研修参加。
- ・介護支援専門員実務研修の実習受け入れ。

- ・24時間体制での緊急時相談対応。

## **2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）**

- ・月130名から153名の利用者数で推移する。昨年と比較し、35名増加した。月平均は143.9名。
- ・利用者の男女比は1：3程度。要介護1と要介護2の方が8割程度を占めている。要支援、事業対象者の人数は月20名前後となっている。
- ・新規の依頼の傾向としては、金太郎の家を以前利用していた方の家族や集いの場の利用者など、金太郎の家と関係する方や地元の学頭や荘原の方からの依頼が多くあった。また、年々医療依存度の高いケースの依頼が増えてきている傾向があり、末期がんの診断を受けて自宅でターミナルを迎える方や在宅酸素の必要な方など、訪問看護を導入し、医療との連携が必要となるケースが多くなっている。
- ・入退院の支援において、コロナ感染症による患者への面会制限、カンファレンス等の開催の制限があり、十分な状況把握ができないまま退院となることも多くあった。
- ・独居で県外に家族がいる場合など、コロナの為に帰省が困難な場合や、帰省するとサービスが使用できなくなるということがあり、ケアマネが家族の代わりに支援を行わないといけない場面もあった。
- ・9月に神戸市からの移住者を受け入れることになり、転居後のサービス、環境整備、精神的なサポートなど、多岐に渡る支援が必要であった。自治体によって制度や地域性、サービスの量の違い、医療の充足度の違い等があり、移住後の支援において障害となることも多かった。
- ・独居で生活が困難となったケース、自宅での介護が困難となったケース、老人保健施設への入所のつなぎとして、長期の短期入所を利用する利用者も増えた。市内に有料老人ホームやグループホームも増えたが、すぐには入所が困難であったり、金銭的な問題で入所できない場合などの理由が多い。
- ・以前は出雲市より毎月数名の認定調査の委託があり、月の前半で認定調査を行っていたが、今年度は市の専任調査員による調査が多く、認定調査を実施することがなかった。

## **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

- ・地域包括ケアの推進の為、お一人お一人が住み慣れた家や地域で暮らせることを優先するための積極的な支援を考えることを意識した。特に、地域の方々や介護保険外サービスに繋げたり、各事業所へのアプローチを図るなど、繋ぎ役としての役割を担うことを意識して支援に取り組んだ。
- ・コロナ感染症に関する対応について、政府の条例や施設での決定事項に応じてその都度検討し、コロナ禍におけるケアマネジメント業務が安全かつ適切に行えるように配慮した。面会制限や訪問を遠慮されることもある中で、利用者の状況の把握やサービス調整等が十分に行えるように連絡を密に取るなどした。
- ・毎週実施する分科会において新規ケースや個別ケースの報告や検討を行い、他のケアマネが担当しているケースの把握に努め、担当者が不在の時もスムーズに対応できるように心掛けた。
- ・今年度も新規ケースを受けた際には、初回訪問時や病状説明時に、担当ケアマネに加えてもう1名のケアマネが同行し、利用者状況の把握やケースの相談をしやすい体制を取った。
- ・今年度も昨年に引き続き1名の介護支援専門員実務研修の実習受け入れを実施し、ケアマネジメントの実際の業務など、3日間かけて学んで頂いた。実習を通して改めて現在のケアマネジメント業務を振り返ることや基本に立ち返って考える機会となったり、基礎資格が言語聴覚士の方であった為、他種

職の視点や知識など、教える側としても気づきや学びを得ることができた。

#### 4. 反省点 課題

- ・当事業所のケアマネ、法人内、利用者の方等にコロナ患者が出なかったのは幸いだったが、実際にコロナ感染者が出た場合の対応方法などの検討がまだ不十分だと感じている。IT の活用等への対応も不十分であり、どのように対応すればよいのかを情報収集・体制作りを行い、適切な対応ができるように準備や心構えをしていきたい。狭い場所で業務をしている為、感染対策をしても感染を防ぎきれないところはあるが、個々が感染対策や体調管理などを行い、利用者の方々にご不便がかからないようにしていきたい。
- ・今年度はコロナ感染症の為、研修も少なく、事前に立てた研修目標に対しての研修を受けることができなかった為、来年度はなるべく研修目標に即した研修や、事例検討会などに参加し、資質向上に努めていきたい。
- ・家庭環境が年々変化し、老々介護、他問題家族、8050 問題等、本人だけではなく、家族支援が必要なケースも増え、家族の状況によってケアマネが振り回されることも多く、困難ケースとなってしまう状況があるため、家族に対するアセスメントや事例検討を行うなどし、利用者支援だけではないところに意識を持ちながら、世帯全体を支える支援ができるようにケアマネが意識していく必要がある。
- ・現在、ケアマネが個々で書類作成やファイル管理を行っているが、適切なケアマネジメントができているかどうか、ケアマネ同士でケアプランチェック等を実施していく必要がある。

(担当：田中美穂)

#### ○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
146	148	139	138	132	135	143	146	148	150	151	151	1727

## ■障がい者支援に関する事業

### 1. 障がい福祉サービス事業

#### (1) 居宅介護 (障がいヘルパー)

##### 1. 活動内容

- ・自宅へ訪問し、家事援助（調理、掃除、買い物、育児支援等）や身体介護（入浴、共にする家事等）を行い、病院の通院のための車への乗降の介助を行った。
- ・家事援助は、支援時間 30 分から 2 時間、身体介護は 30 分から 2 時間のそれぞれニーズに合わせて提供した。通院介助は、病院の中での介助が必要な方については付き添いもした。

##### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・相談支援専門員の計画書に基づき、個別支援計画を作成し、決められた時間、必要な内容を提供した。決められた時間外の希望がある時では、計画書の変更、内容を明確にした。
- ・家事援助は、希望としては買い物、掃除が多くあり、身体も共にする掃除が多くあった。

- ・コロナ感染症について感染対策の話をしたり、不安を和らげるよう支援した。ご自宅での体調確認、検温実施、普段からの体調管理において定着した。

### **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

- ・訪問提供記録の実施事項の記入を細かく報告し、利用者の変化などの経過を分かりやすく家族、関係機関へと情報を伝達できた。
- ・家族内で介護力の低い家庭について相談支援専門員を通して、市役所へ通報、関係者会議を行った。

### **4. 反省点 課題**

- ・訪問予定時刻に訪問出来ず、訪問日や訪問時間の変更をお願いすることもあった。
- ・計画に沿って支援できない時もあり、緊急の場合以外では対応を考え、統一した支援内容を提供したい。支援会議の内容報告もヘルパー全体に伝達を行い、見直し、変更部分の把握に努めていきたい。
- ・少人数のヘルパーが対応をしており、人数増やして視野を広く支援を行うといいと思った。

### **5. その他**

- ・人員不足もあり、デイ職員のヘルパー業務の手伝いがあり、違う視野からの支援が出来たと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、職員の体調確認、手洗い、手指消毒を訪問先ごとに行った。ご利用者の体調確認を合わせて行った。

## **(2) 移動支援**

### **1. 活動内容**

#### **・通学移動支援**

有償運送車両を使用し出雲養護学校に通学の付添い個別支援（ヘルパー1名に対し利用者1名）とグループ支援（ヘルパー1名に対し利用者2名）と学校から路線バスにて出雲市駅で待ち合わせ、電車と徒歩で下校付き添いを行った。

- ・自宅から福祉施設への送迎など通院以外の目的で安全確認移動を行った。
- ・休日の余暇活動、買い物、スポーツなど外出の付添いを行った。
- ・支援時間は30分の買い物から食事・外出付き添いの2、3時間まで様々なニーズがあった。

### **2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）**

- ・毎日から数か月に1回利用と幅広い利用の方がおられ、上記の希望の内容も様々で利用者のニーズに合わせての支援を行った。
- ・買い物や外出、外食の希望が多くあった。利用者、家族の方からは大変喜ばれ、外出楽しみにされていた。
- ・新型コロナウイルスの感染防止の為、外出自粛があり余暇の活動利用件数が減少したが、買い物や移動など必要な外出同行の依頼もあった。
- ・新型コロナウイルスの感染防止の為、2月より利用が減り、長時間の外出のキャンセルがあった。

### **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

- ・記録に利用者の様子を細かく書くこと、記載不十分な所は付け足しを行った。手順の統一を図った。

#### 4. 反省点 課題

- ・予約時間の遅れなどあり事前の電話連絡をした。また時間に制限があり、早めに切り上げる様にお願いすることもあった。

#### 5. その他

- ・コロナウイルス感染症の感染防止のため、職員の体調確認、有償運送許可車両において車内消毒を毎日行った。ご利用者の体調確認行い、出来る方への手指消毒を行った。

### (3) 同行援護

#### 1. 活動内容

- ・希望時に、利用者の方の要望に合わせて外出の支援を行った。  
墓参り、通所先の利用付き添い、通院の付き添い行った。

#### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・コロナ感染症感染防止のため、外出を自粛される傾向にあり、週末を中心に外出の機会が少なくなった。
- ・通院の検査、診察など付添いを行った。
- ・3名利用された。
- ・時間は、8時から16時まで支援時間1時間から6時間と希望に合わせて内容を実施した。
- ・視覚情報の声掛け、安全に出来る様にした。トイレでの介助や食事の介助は希望に沿った支援を心掛けた。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・利用者の安全を考え、的確に視覚情報を伝えご希望に添える様に支援した。
- ・感染症感染防止のため、目的地にて手洗い、消毒を行った。

#### 4. 反省点 課題

- ・利用件数が減少しており、今後通院など日常生活上で必要な支援の利用が増えるといいと思う。  
女性訪問介護員の同行援護講習受講を増やしていけるといいと思う。

#### 5. その他

- ・1名退職あり5名の職員で対応した。

(担当：竹内淳子)

#### ○障がい福祉サービス利用延人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	128	130	145	128	121	129	141	125	141	130	131	153	1,602
同行援護	0	1	1	5	0	2	4	3	2	1	3	6	28
移動支援	63	65	116	98	54	113	129	104	110	93	106	97	1,148



欲をより高めスキルアップ、次の目標をめざして頂けたらと思う。

#### 4. 反省点 課題

- ・「姫茶」「命茶」は、インターネット販売や新聞広告に掲載するなどに挑戦してみたものの商品の魅力を伝えるには課題があるようだ。「クロモジ茶」や「ドクダミ茶」など消費者に分かりやすいお茶の販売の検討の余地がある。
- ・より一層新しい商品開発、取り組みが性急な課題となっているが、なかなか実現に向けて具体化が出来ていないのが実情である。
- ・畑作業などを含め、施設外作業に従事できるご利用者が少ないことが、課題である。
- ・職員間に農作業の知識を持った職員が少なく、担当が限られてしまい作業に偏りがあったので、今後、みんなが学び合いながら知識を得ていきたい。

(担当：阿食羊志子)

○利用件数 定員 10 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	309	299	267	266	300	281	295	263	254	226	245	272	3,277
平均	11.88	11.50	10.27	9.85	11.54	10.81	10.93	10.52	9.77	9.83	10.21	10.07	10.61

## (2) 生活介護

### 1. 活動内容

- ・個々の特性や今までの生活スタイルを大切にしながら、必要に応じた介助を行い、無理なく安心して過ごして頂く場を提供する。
- ・一人ひとりの持てる力、能力を生かした活動や、個々の希望メニューを取り入れながら、心豊かに心身の活性化を図る。
- ・活動…作業、散歩、ドライブ、買い物、壁面制作、音楽鑑賞、歌、習字、行事参加
- ・入浴介助、排せつ介助、食事介助、視覚障害の方の歩行誘導
- ・PTによるリハビリテーションの提供

R3.3 現在、リハビリテーション加算 5 名、加算なし 2 名の方の訓練を行っている。通所介護に比べ、若い方が多く、一人にかける時間を多く設定している。外出先などに実際一緒に行き動作確認を行ったり、具体的な目標を設定して関わった。また、動作指導を職員に行い、本人の力を十分出していただけるよう関わっている。歩行に意欲の低かった方が、生活介護での外出を経験し、歩行に意欲的になられた方があり、現在また外出に向けて積極的に訓練を行われている。今後も生活の範囲を広げていけるよう、関わっていきたい。(PT松原)

### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・在籍者数は新規利用者 6 名、就労 B からの移行者 3 名を含めて今年度で 25 名となり、そのうち平日利用者 16 名、土曜祝日のみの利用者が 6 名、長期休み 3 名、一日平均利用者数も増え昨年度と比較するとかなりの増員となった。
- ・障害区分では 5～6 の方が 7 名おられマンツーマン対応が必要であったり、難病や重い病気を抱えられ

ている方には各々適切な介助、介護が求められた。

- ・障害別では身体、知的がほぼ同数で精神の方は人数としては少ないが、医療との関わりや個別での相談事が多く担当職員を中心にじっくりと傾聴しながら過しやすい環境や配慮につとめた。
- ・視覚障害の方が2名、車椅子の方5名、杖歩行者1名おられ、安全な動線の確保が求められた。
- ・作業は出来るが、ゆったりと落ち着いた環境を求めて他事業所から移ってこられた方も2名おられ環境に適応され、安心して作業に向かわれている。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策として送迎時の検温チェック、体調確認、手指消毒、マスクの着用、事業所内では蜜を避けるため座席の配置を工夫したり、パーテーションの設置、時間毎のアルコール消毒及び換気等の徹底に努めた。
- ・ゆったりと落ち着いた環境のよさを紹介して下さる相談員さんの中で一定の評価を頂き、大勢の中では適応が難しい方々の相談が寄せられ利用につなげる事が出来た。
- ・身体の方で入浴サービス希望が5名、リハビリ希望が5名おられ、それぞれサービスを提供しているがリハビリについては回数を増やしてほしいとの希望が寄せられている。
- ・生活介護でも作業能力に応じた工賃がきちんと支給されていることは魅力の1つであり、特性やこだわりを受け入れながら、持てる力を最大限に発揮できるような作業環境の工夫に力を入れた。
- ・コロナ禍の中で行事やレク活動を自粛せざるを得ない中で歌の会は好評でコロナ対策を徹底しながら定期的に実施し楽しまれていた。
- ・常勤の看護師による適切な健康面でのアドバイスや栄養、食事指導がなされた。

### 4. 反省点 課題

- ・利用者数が増える一方で、コロナ対策で蜜を避けるために、ほのぼののルームに人が集まりゆったりと落ち着いた環境から、少しずつ遠ざかり、こだわりや特性面で環境に適応しづらくなっている利用者に対し、より細やかな配慮が必要となってきている。
- ・生活介護の方に対して作業以外の個々のニーズが十分に反映されていないのではないかと反省を元にもう一度、利用者一人一人の個別支援計画の見直しが求められる。そして作業ができる生活介護の魅力と共に一人一人が持っている力を発揮しながら生き生きと過ごせる場の提供に努めていきたい。
- ・障がいの特性をしっかりと理解、共有したうえで、一人ひとりの人生の在り方にも目を向けながらQOLの向上に向けて一步一步積み重ねていく必要がある。

(担当：阿食羊志子)

○利用件数 定員 10人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	215	211	221	221	219	249	254	253	260	247	258	295	2,903
平均	8.27	8.12	8.50	8.19	8.42	9.58	9.41	10.12	10.00	10.74	10.75	10.93	9.39

### 3. 福祉移送（福祉タクシー、有償運送）

#### 1. 活動内容

- ・福祉タクシー（4条）：2種免許を取得した運転士が車椅子を使用されている方や障がいのある方、内部疾患のある方の外出や通院のサポートを行った。
- ・有償運送（78条）：ヘルパー2級及び介護職員初任者研修受講修了者が、運転者講習を受講し、陸運局の許可を得て、訪問介護事業の通院等乗降介助、移動支援、居宅介護の通院乗降介助、同行援護等と組み合わせた移送を行ったが今年度はコロナのため同行援護は殆どなかった。定期利用の方や事前に予約を頂いて利用される方が多いが、急な依頼にもできる限り対応させて頂いた。

#### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・出雲市や松江市の発行するタクシーチケットにも対応し、殆どの方が予約して頂いてのご利用だが、当日の依頼にもでき得る限り対応させて頂いた。
- ・施設入所されている方の外出や通院、入退院の依頼も多くあった。
- ・要介護ではない方や訪問介護契約をされていない方の利用も多く4条タクシーをできる限りで対応させて頂いた。
- ・安全運転を心掛け、また人に優しい運転（横断歩道を渡ろうとされている方や雨の日の歩行者等）を継続していく。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・大きな事故もなく、安全運転を常に心掛け業務に取り組んだ。
- ・新規の方等、地図やその方の身体状況などを密にし、運転士が変わったために対応が変わったりすることのないよう努めた。
- ・依頼に漏れのないような体制を心掛け、また、予約時間に遅れることのないよう、交通事情の報告等を共有した。前の付添が長引いたため次の移送に遅れそうな場合など早めに事務所に連絡を入れ、他の職員が代わりに向かう等できるだけ利用者の方にご迷惑をかけないよう努めた。
- ・付添の依頼も多く、ケアマネや家族と連携し、ご利用者の方の様子を書面にしてもらったものを持参して対応した。
- ・車内清掃を全職員が心掛け、利用者の皆様に気持ちよく乗っていただけるよう出発前や帰所時にはマットの泥を払うようにした。
- ・出発前点検を全職員で徹底して行った。タイヤ交換も迅速に行った。

#### 4. 反省点 課題

- ・団地内徐行や一旦停止等、安全運転に関する情報をコロナ渦でなかなか発信できなかった。
- ・毎年のことではあるが車両に傷が目立った。報告のないものもあり、報告の徹底を全職員に再度周知していく。
- ・研修に積極的に参加し、介護技術の向上や病気や障がいに対する理解を深め、より質の高いサービスが提供できるよう努めていく。

（担当：森山幾美）

○利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4条 (福祉 タクシー)	58	72	73	84	54	67	63	63	72	62	65	75	808
78条 (有 償運送)	169	172	201	175	144	222	255	255	238	202	217	231	2,481

## 4. 障がい者相談支援事業

### 1. 活動内容

- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、サービス等利用計画を作成し、支援会議を開催。
- ・モニタリングの実施。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。毎月のサービス調整会議の出席。
- ・市役所から委託を受けた方の障がい支援区分認定調査の実施。
- ・請求業務
- ・10月出雲市役所より実地指導

### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・相談員3名で14件担当している。（R3年3月現在）
- ・障害種別：身体障害…6名、知的障害…2名、精神障害…6名
- ・男性8名、女性6名。
- ・全員在宅生活をしておられる方。就労系サービス6件、生活介護4件、居宅介護利用4件
- ・新規：3件 金太郎の家との従来からのつながりから新規のケースを紹介して頂くことが多かった。
- ・終了：4件 終了理由～入院、一般相談へ移行、福祉サービス利用終了、介護保険へ移行
- ・障がい支援区分認定調査2件実施

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・モニタリングや計画書作成、変更等は利用者の方の思いを聞きながら、滞りなく行うことができた。
- ・出雲市主催のサービス調整会議や人材育成研修に積極的に参加した。グループワークで議論することが多く、他事業所の相談員の方の意見や知識が参考になり、見識を広めることができた。
- ・出雲市のつながる部会に参加させていただき、月に一度集まって地域資源のマップ作りを行った。話し合いの結果マップではなく、一覧表にして地域資源を各相談事業所に配布することになった。部会の中で地域の様々な情報を知ることができた。
- ・新型コロナウイルス対策で、5月は支援会議を実施せず電話による聞き取りのみで行った。モニタリングは自宅に訪問して行ったが、なるべく短時間で行うようにした。
- ・11月から相談員の産休、育休があり、相談員を1人増員して対応した。8月頃より一緒に訪問や引き継ぎを行い、産休の間の相談員の変更も特に問題なく行えた。

#### 4. 反省点 課題

- ・10月に<sup>出雲市</sup>より<sup>実地指導</sup>があった。個別のケースについての<sup>モニタリング</sup>や<sup>計画書</sup>等の書類は整っていたが、<sup>契約書</sup>や<sup>運営規定</sup>の文言について<sup>指摘</sup>があり<sup>修正</sup>した。また、<sup>相談員</sup>の<sup>兼務</sup>が多く<sup>業務</sup>ごとの<sup>勤務時間</sup>を<sup>明確</sup>にすることと、<sup>相談支援</sup>の<sup>業務</sup>に<sup>支障</sup>が出ないように<sup>注意</sup>を受けたため、<sup>今後</sup>気を付けていきたい。
- ・<sup>サービス提供事業所</sup>や<sup>各関係機関</sup>との<sup>情報共有</sup>は<sup>今後</sup>も<sup>こまめ</sup>に行なっていきたい。

(担当：農間玲美)

##### ○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
11	11	13	10	10	8	13	8	10	10	10	9	123

### 5. 障がい者地域生活支援事業

#### (1) 日中一時支援事業

##### 1. 活動内容

- ・利用者家族の要望に応じた利用時間の受け入れと、安心して過ごせる場の提供を行った。
- ・年間を通しての利用者（児）は8名で、今年度途中より小学生1名が新規に利用された。
- ・毎週定期的に利用される方が5名、他の方は単発的に利用されていた。
- ・小学生の放課後利用や土曜日、祝日、長期休み期間中の利用があり、個々に応じた学習指導や自由遊びの見守り、外出など行った。
- ・また、他事業所（生活介護）を利用された後の居場所として毎日利用されたり、妻の家で就労B型、生活介護を利用されている方で、利用日数が超える場合に日中一時支援を利用して来所されている。

##### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・日中一時対応専門スタッフを配置し、学校の担任との連携を図りながら、より特性を理解し、落ち着いて過ごせるように取り組むことができた。
- ・夏休み、冬休み、こどもの日のあるゴールデンウィークの期間中にはコロナ対策を徹底しながらお楽しみ外出等を設けた。

#### 4. 反省点 課題

- ・土曜日、祝日、夏休み等の長期休みの利用日は、生活介護者の方と一緒に過ごす場面が多く、生活介護利用の方に影響が出ることもあり、環境面の配慮に苦慮した。

(担当：阿食羊志子)

##### ○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
45	33	52	46	47	49	45	45	57	43	47	53	562